

**中・老年期日本人における心血管病死予測因子としての選択反応時間と握力：
放射線影響研究所成人健康調査**

認知機能や身体機能は歳をとると低下しますが、これらの機能と死因となる病気の間を同時に調べた研究は、今までほとんどありませんでした。

この研究では、「反応時間（ランプを点灯した順に消す作業にかかる時間で測定）」を認知機能の、「握力」を身体機能の指標として用い、心臓病や脳卒中による死亡との関連を調べました。

約 35 年にわたる追跡の結果、「反応時間」が短いほど、また「握力」が強いほど、心臓病や脳卒中による死亡が少なくなることが分かりました。

本資料は、専門家でない方向けに出来るだけわかりやすく解説することを最優先しています。そのため専門的な内容は割愛しており、論文内容を完全に再現しているものではありません。より詳しい内容は出版社の論文をご覧ください。